

体験と子どもの発達

新しい年が始まり、寒さが一段と厳しくなりましたが、子どもたちは元気いっぱい、園内には、楽しそうな声や笑顔が溢れています。子どもたちが楽しそうに過ごしている姿は保護者や療育者の励みになっています。

幼児期の豊かな経験は、子どもの発達に大きな影響を与えます。ひまわり学園では、整った環境設備や療育者のアイデア・工夫などにより、保育園や家庭では味わえないような遊び(活動)がたくさん経験できますが、野外活動や買い物学習、乗り物体験、調理活動などの実体験も療育の一環として行っています。

例えば、公園での遊びは、広い場所ですっきり体を動かし、友達と遊ぶことで、身体的な発達だけでなく、社会性やコミュニケーション能力も育まれます。五感を刺激し、好奇心を引き出す自然との触れ合いは、感情的な成長や思いやりの心を育む土台となります。買い物学習は、日常的に必要なスキルを実践的に学ぶことが出来ます。お金の使い方や商品の選び方、店員とのやり取り、交通ルールを守って歩くことなどを通して子ども達は自主心を高め、生活に対する理解を深めていきます。調理活動では、食材に触れ、料理を作る工程を楽しむことや、食に対する興味や手先の器用さを育むだけでなく、仲間と協力して作業を進める中で、共同作業の大切さを学ぶことが出来ます。これらの様々な体験を通して、子ども達は成長し、自信をつけながら日々の新しいことに挑戦していきます。

今年も、子どもたちが日々の遊びやさまざまな体験を通して、心と体の成長を実感できるような療育を提供していきたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

宇野 亜弓



Q & A コーナー

今号は『社会性・集団適応』に

についての質問に対して答えていきたいと思います。



Q. 普段はたくさん話をする事ができるのに、自分から挨拶をする事が苦手です。どのように声を掛けると良いでしょうか？

A. 「おはよう」と言われたら「おはよう」と返事をする。簡単にできるはずなのに、どうして…と思われるかもしれませんが、挨拶ができない理由は必ずあります。その理由を探ってみると良いでしょう。一番多い理由としては、「恥ずかしいから」です。目があったり声を掛けられたりすると、緊張して挨拶ができなくなる子がいいます。また「タイミングが分からない」という子もいます。子ども達には挨拶をされたら、すぐに返すというリズムが身につけていません。「相手に気付いていない」「時もあるかもしれませんが。周りに気を取られていたり、目が合わなかったりすると、相手の存在に気付いていない場合もあります。他にも様々な理由が考えられると思います。

子ども達の性格や発達、生活する環境によって挨拶ができるようになる時期には差がありますが、挨拶ができるようになるのは四歳頃だと言えます。四歳頃になると、意識的に他者へ注意を向けられるようになるので、他の場所を見ていたとしても「おはよう」と声を掛けられれば、「相手が自分に対して挨拶をしている」と理解できるようになります。また、『他者から見た自分』を意識できるようになるので、ルールを守ろうとする姿も見られるようになってきます。

そして、ことばの数が増え、自分の気持ちや伝えたい、相手の気持ちを聞いたりする機会も増え、コミュニケーション能力が高まっていく時期です。



だからと言って、自然にできるようになるまで何もしない…というわけにはいきませんよね。たとえ一歳の子でことばでは伝えられなくても、声を掛けられた時にニコツと笑顔を見せると、相手もとても良い気分になります。そのため、自発的に挨拶をする意欲を育てる事が大切です。よく「挨拶をしなさい」「先生の目を見て」とお父さんやお母さんが挨拶を強要する姿を見かけます。強要されると抵抗感を覚えます。子どもが自ら進んで挨拶ができるようになるためには、モデル

が必要です。まずは身近にいるお父さんやお母さんが普段から挨拶をしているのか、振り返ってみましょう。

「おはよう」や「さようなら」以外にも、人との関わりの中で大切なことばとして「ありがとう」もあります。療育でも「ちようだいーどうぞ」や「○○してくれて」ありがとう」など、友達とのやり取りの中で療育者がモデルを示し、ことばを促しています。これらのことばのやり取りは、家庭でも何気ない一言として言い合えるものです。家族だから、言わなくても通じていると思うかもしれませんが、普段から自然にできていると、友達や先生に対しても抵抗なく話せるようになると思います。少し意識をしてみると良いでしょう。

Q. 保育園等で、指示をされても好きな遊びを続けてしまい、次の行動に移せない事があります。家庭でもできる事はありますか？



A. 指示を聞いて行動するためには、①指示が聞ける事、②指示が理解できる事、③指示の通りに行動できる事が必要です。①指示を聞くためには、相手に注目する事が大切です。家庭においても、お子さん

の名前を呼ぶ時に背後から声を掛けるのではなく、お子さんの表情が見える正面から声を掛けるようにしましょう。そして、お父さんやお母さんに注目した事を確認した上で話をするが良いです。また、②指示が理解できるためには、分かりやすく伝える事が大切です。例えば「ちようだい」と言われたら、「ものを渡せば良いんだ」と理解できるように、「一つのことばで一つの動作をする」というような工夫をします。写真カードやジェスチャーをつける事も、指示を理解する事の助けになります。そして、③指示の通りに行動できる「ようにするために、お父さんやお母さんがモデルを示し、○○と言われたら△△をする」と具体的に見せると良いでしょう。

集団行動が苦手な子の中には、指示の理解に時間が掛かったり、複雑な指示を把握するのが難しかったりする場合があります。そのため、お子さんがどこまで指示を理解できているかを確認する事が重要です。「今、何をやるの？」と尋ねたり、お子さんに指示を復唱してもらったりします。理解が不十分な場合は、より簡単なことばで説明し直したり、視覚的な手掛かり（図や写真など）を用いたりすると効果的です。また、分からない時はお子さんからも質問する習慣を身につける事も大切です。

Q. 家の中では特に気になりません。しかし、園からは集団から外れると聞きます。どうしてでしょうか？

A. ある程度コミュニケーションが取れると、家庭においては育てにくさを感じにくいと思います。

なぜなら家庭は大人が子どもに合わせて『個別』の対応ができる場所だからです。例えば、出掛ける時間までにおもちやを片付けてほしいと思っても、お子さんがなかなか片付けなかったら、「じゃあ、あと一回で終わりだよ」とお子さんが納得できるように声を掛ける事ができます。しかし、保育園等では『集団行動』を求められますので、家庭ではできる”あと一回“ができない時が多いのです。

家庭においても、時間で区切ってみたりお父さんやお母さんの思いを優先させたりして、『周りの状況や相手に合わせて行動する』という事を経験してみる事も良いかもしれません。小学校では時間割が決められており、次の授業が始まる前に部屋を移動したり準備をしたりする事を求められます。休日、家庭でも時間割表のようなものを作り、時間と活動内容をイラストや文字で書いてみましょう。その表を確認しながら行動し、できた時はシールを貼って”できた“という過程を見



て分かるようにすると良いと思います。また、時間割表をホワイトボードで作ると、マジックペンで丸を付けたら評価を書きこんだりする事もできますね。楽しみながらお子さんと一緒にできる内容を考えてみてください。

『社会性・集団適応』ということばを聞くと、家庭においてはなかなかできないのではないかと思われるかもしれませんが。しかし、実は家庭が一番小さな『社会』です。家庭の中での人との関わりを基盤にして培われた信頼関係や自己表現の経験が、保育園等の環境での他者との協調やルールの理解、社会性への発展へとつながっていきます。

今後も療育の中や質問を受けた時に、具体的に家庭でできる事をお伝えしていこうと思います。いつでも聞いてくださいね。

(文責 安田)



〈親子でできる室内遊びの紹介〉

寒さが身に堪える季節になりました。

元気いっぱい外遊びも良いですが、風邪や感染症が心配な季節でもあります。そんな時だからこそ、家庭でできる室内遊びについて紹介したいと思います。



一つ目は、「ボール遊び(風船遊び)」です。

遊び方..①大人と子どもが向き合って立ちます。

②相手に向かってボールを投げたり転がしたりします。

遊びの発展..一、距離を少しずつ遠くする。また、ボールを風船に換えるとふわふわ動くので難易度が上がります。

二、小さいお子さんはボールと一緒に追いかけてたり、風船に好きなキャラクターを描いたりしても楽しいと思います。

遊びの効果..「いくよ」「いいよ」と声を掛けることで相手を意識してやり取りする力に繋が

ります。また、転がってくるボールを追視して手でキャッチすることで目と手の協応に繋がります。

二つ目は、「お馬さんごっこ」です。

遊び方 ..①大人が四つ這いになる。

②子どもが大人の腰のあたりにまたがって乗る。③大人は体をゆっくりと前進する(注意..子どもが落ちないように気を付けてください)。子どもが揺れに対して手を着いて体を支えたり、姿勢を立て直したりできるか様子を見ながら行ってください。

遊びの発展..前後や左右、大きく揺らす、小刻みに揺らすなど揺らし方を変化させてみてください。

遊びの効果..揺れに対して、姿勢を保持することで体幹が育ちます。

さらに、バランス感覚も同時に育ちます。



三つ目は、ふわふわキャッチです。

遊び方 ①二枚重ねのティッシュを一枚に

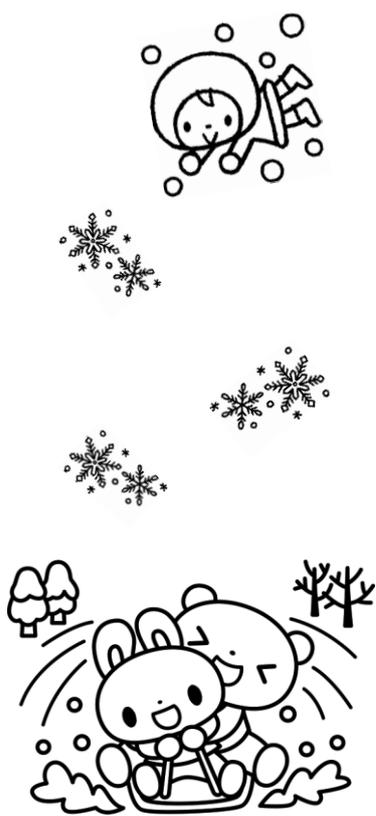
はがす。②大人が高い位置から落とす。

③子どもが変則的な動きをして落ちてくるティッシュをキャッチする。



遊びの発展：一、風船や丸めた紙、空気を入れたビニール袋を落とす。二、落とす個数を増やしたり、落とすタイミングをずらしたりする。三、道具を使って（例えば、箸やかご）で、キャッチする。

遊びの効果：落下してくるものを見て臨機応変に体を動かす必要があるため、バランス感覚や瞬発力が身に付きます。



☆親子遊びで大切にしてほしいこと☆

『まなざしを合わせること』

目と目を合わせることで、お子さんの心の動きに気づくことができ、もっとうしてみよう“とお子さんの反応に合わせて遊びを工夫することができます。

また、相手がいる場所を見て強さや速さをコントロールしたり相手とアイコンタクトをとって「やる側」「受ける側」を意識したりすることで、相手を意識して、やり取りする力に繋がります。

今号は親子でできる室内遊びを紹介しました。道具を使わない体を使った遊びや家にある身近な物を使った手軽にできる遊びなので、親子で体を動かして”楽しい！”という気持ちを共感しながら遊んでみてくださいね。



(文責 傍島)



- ◎1月、2月のおやつ週間について(対象者のみ)
1月7日(火)~10日(金)・1月21日(火)~24日(金)
2月4日(火)~7日(金)・2月18日(火)~21日(金)
- ◎親の会:1/20(月)10:00~11:00 出前講座
フリーマーケットありがとうございました(親の会 会長)
- ◎就学前学習会(5歳児の保護者の方対象)
1月27日(月)9時30分~11時 ※詳細については別紙でお知らせします
- ◎役員会:3/24(月)9:30~



☆寄付及びボランティアのお知らせ☆

<寄付>

*国際ソロプチミスト大垣様より

お菓子の詰め合わせ 100袋



*大垣キワニスクラブ様より

キワニスドール 20体、マグフォーマー 2セット

*大垣東ライオンズクラブ様より

ボールプールのボール入れケース 2個

つながる森のトンネルセット 1個

お菓子



*日本赤十字奉仕団様より

洗濯洗剤 10個

*アシタバ株式会社様より

お菓子の詰め合わせ 70袋



<ボランティア>

*大垣東ライオンズクラブ様

ゲームでの交流会

*アシタバ株式会社様

サンタクロースのイベント

ありがとうございました。





ちよつとコラム

児童発達支援とは、発達が気になる未就学のお子さまに対して日常生活スキルの習得や集団生活への適応などの支援を行なう福祉サービスです。

ひまわり学園も児童発達支援事業所の一つです。学園では、〇〜二歳児は親子療育ですが、三歳児以上の就園児は保護者の方に見守り室から見学をしていただいています。親子で一緒に通所することで保護者支援も大切に行っています。他の事業所では、運動療法を主に行なっている施設や預かり型の施設など、それぞれ特色あるサービスを行なっています。

児童発達支援事業所は併用して利用する事ができますが、同じ日に利用する事はできませんのでご注意ください。



*** お願い ***

インフルエンザやコロナ感染症など、学校感染症に罹られた場合は学園への連絡と、感染症報告書の記入、提出をお願いいたします。また、体調不良で保育園等をお休みされた場合は療育もお休みいただきたいと思います。学園は小さなお子さんや体の弱い方も通園しているため、感染拡大防止にご協力をお願いいたします。



【学園の療育及び施設に関するアンケート】を11月に実施し、196名の方にご回答いただきました。ご協力いただき、ありがとうございました。集計内容につきましては、1月にホームページ及び園内に掲示させていただきますので、ご覧ください。